

学校教育目標

○自ら学ぶ子  
 知:自ら進んで学習に取り組み、見方・考え方を働かせ、友達と協働して解決に向かって学び続ける子を育てます。(学び続ける子)  
 徳:多様な人とのかかわりを通して思いやりの心をはぐくみ、自分や相手を大切にすることを育てます。(共に生きる子)  
 体:自分の体や心に関心をもち、健康的な生活を送ろうとする子を育てます。(健やかな子)  
 公:地域の材に学びながら地域に愛着をもち、地域に進んでかかわろうとする子を育てます。(浦島の子)  
 開:多様な人とのコミュニケーションを通して視野を広げ、持続可能な社会の創造に向け行動しようとする子を育てます。(未来を創る子)

学校概要	創立 103 周年	学校長 藁科 直希	副校長 長島 真弓	2 学期制	一般学級: 18	個別支援学級: 3
	児童生徒数:	543 人	主な関係校:	浦島丘中学校		

教育課程全体で 育成を目指す資質・能力	浦島丘中 ブロック	小中一貫教育推進ブロックにおける 育成を目指す資質・能力を踏まえた 「9年間で育てる子ども像」と具体的取組
<課題解決能力> <自分づくりに関する力>	浦島丘中学校 浦島小学校 子安小学校 神奈川小学校	人とのつながりを大切にし、ねばり強く社会を生きぬく子 ・9年間で育てる子ども像を共通理解していくために、小中担当者会で取組について話し合ったり、年間2回の授業研究会を行ったりする。 ・児童生徒交流日等を通して、6年児童が中学校生活を理解し、スムーズに中学校生活をスタートできるようにする。 ・中学校吹奏楽部のコンサート鑑賞を通して、中学校生活への期待をもたせる。

中期取組目標

○育成を目指す資質能力を意識し、問題解決的な学習活動に取り組みます。  
 ・話し合い活動を通して、子どもたちが考えを深めたり、解決策を導き出したりする力を付けます。  
 ・対話的な活動を通してコミュニケーション力を身に付けるようにします。  
 ○「わかった」「できた」の経験や人との関わり、自己決定等を通して、子どもたちの自己肯定感を高めます。  
 ・子どもたちが安心して自分らしさを発揮できる環境をつくります。  
 ・教職員で自己肯定感や自己肯定感を高めるための手立てについての共通理解を図り、子どもたちの自己肯定感を高める取組を行います。  
 ・子どもたちの具体的な姿を見取り価値づけます。

重点取組分野		具体的取組
知	授業改善	①他者との関わりを通して合意形成していくことができるように、コミュニケーション力に焦点をあてた研究を推進していく。その中で、話し合い場面やグループでの学習場面など、視点を明確にして研究を深められるようにしていく。 ②子どもの思考の深まりを促す効果的なICT機器、特にタブレットの活用ができるように、日常的に活用場面を試行錯誤しながら授業に臨む。
徳	豊かな心	①児童の人権意識を高められるように、人権の指導計画の充実を図る。 ②互いのよさを認め合い、自己肯定感を高めることができるように、身に付けさせたい資質能力を明確にしたたてわり活動を行う。 ③自己肯定感を意識した教育活動を進めていけるように、カリキュラムマネジメントを推進する。
体	健康安全教育	①心身の健康に対する意識を高められるように、すくすく会議を年2回行い、健康課題を把握する。 ②体力の向上を図ることができるように、体育の学習をより一層充実させていく。 ③自らの安全を確保するための判断力や行動力を育成できるように、ねらいを明確にした避難訓練を行う。
公開	地域学校協働活動	①地域や人を大切にしようとする気持ちを育むことができるように、総合的な学習の時間や生活科の学習の中で、地域の材を生かした単元づくりや多様な方々との関わり合いを大切にいく。 ②地域の材をより一層生かした学習ができるように、学校運営協議会を年3回開き、教育活動への理解をいただいたり、地域学校協働本部との連携をより一層深めたりする。
いじめへの対応		①児童一人ひとり丁寧に見取り、いじめを生まない学級・学年・学校の風土をつくり、未然防止に努める。 ②いじめの早期発見・早期解決ができるように、定期的に児童へのアンケートや面談を実施し、情報収集や学年研での情報共有に努める。 ③組織的な対応を行うことができるように、認知したいじめ案件をその都度、また、月1回の対策委員会・職員会議で情報共有し、学校全体の問題として解決していく。
人材育成・組織運営(働き方)		①授業力・学級経営力・学年経営力・児童指導・支援に関する力を向上できるように、教科分担制を取り入れたり学年研を充実させたりする。 ②授業力や教員としての資質能力を高められるように、全教職員が関わりながらメンター研修を行う。 ③時間を有効に活用できるように、会議内容や方法の精選、見直しを図る。
特別支援教育		①基礎学力の定着や居場所づくりができるように、さわやか教室で、支援が必要な児童への個に応じた指導を行う。 ②SCやSSW、通級指導教室や東部療育センターとの連携を密にする。 ③継続的な支援を実現できるように、個に合った指導・支援計画を作成する。
児童指導		①YPアンケート・プログラムを活用し、学年や学級の風土づくりに関して話題にしたり、児童の実態に応じた具体的な取組を実践したりする。また、関係機関の協力を得て、本校の状況に合わせた研修を充実させる。 ②児童指導年間計画に基づき、全校でふれのない指導を行っていくことができるように、学年研などで児童指導年間計画に基づいた振り返りを行う。
担当	A部	
担当		
担当		